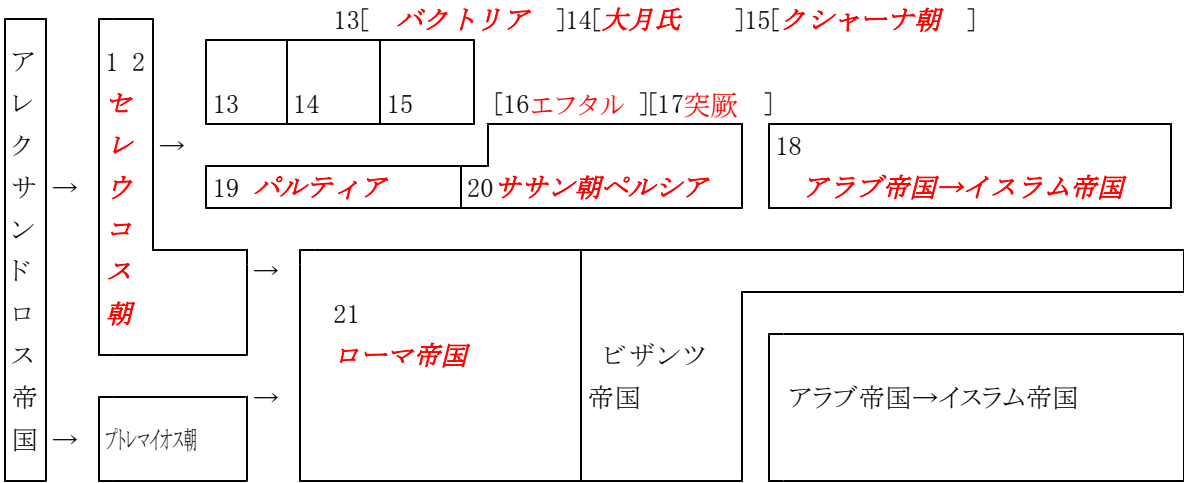


### 4. イラン高原 a. パルティアとササン朝 (教29~31 図72)

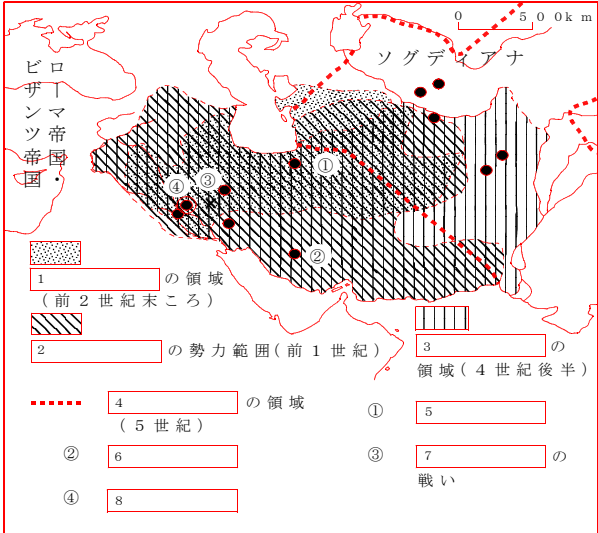
西アジアや中央アジアなどでは前4世紀後半の[1 アレクサンドロス ]の遠征以降、ギリシア人の[2 セレウコス朝シリア ]の支配下にあったが、前3世紀、イラン系[3 遊牧民 ]のアルサケスが[4 パルティア ]を立て(〜後3世紀)、東西交易により勢力を伸ばした。

後3世紀、[5 農耕民 ]に基礎をおくイラン人が[6 ササン ]朝ペルシヤを立てた。この国もローマおよびそれに続く[7 ビザンツ(東ローマ) ]帝国と激しく争い、3世紀の[8 シャープール一世 ]はローマ皇帝[9 ヴァレリアヌス帝 ]をとらえた。その後、一時中央アジアの遊牧民[10 エフタル ]の侵入に悩まされたが、6世紀には[11 ホスロー一世 ]のもとでこれを破り、全盛期をむかえた。



- ①アレクサンドロスの遠征
  - 死後、アジアにはギリシア系の[22 セレウコス朝シリア ]成立
  - ↓
- ②前3世紀中期アム川上流で[23 バクトリア ]王国成立([24 ギリシア ]人)
- ③[25 遊牧 ]イラン人、イラン高原で[26 アルサケス朝パルティア ]を建てる。(中国名[27 安息 ])
- 前3世紀〜3世紀
- 前2世紀、[28 メソポタミア ]を占領、首都[29 クテシフォン ]を建設
- シリアに進出、[30 ローマ ]と争う
- 31 東西交易 によって繁栄、[32 ヘレニズム (ギリシア) ]文化の影響を強く受ける
- だいにギリシアとイランの融合すすむ

- ④[33 ササン ]朝ペルシヤ
  - 後3〜7世紀
  - [34 農耕 ]をいとなむイラン人がパルティアを滅ぼし建てる。(首都[35 クテシフォン ])
  - ア)インダス川西岸からメソポタミアへ
  - いたる大帝国をたてる
  - シリアに進出→[36 ローマ帝国 ]、4世紀末以降[37 ビザンツ帝国 ]と断続的に戦う
  - ([38 シャープール一世 ]、ローマ皇帝ヴァレリアヌス帝を捕虜とする)
  - イ)5世紀後半 遊牧民[39 エフタル ]の侵入で、一時混乱



パルティアとササン朝の領域

- ウ)6世紀 [40 ホスロー一世 ]
  - ・北方の[41 突厥 ]とむすび[42 エフタル ]を滅ぼす
  - トルコ系遊牧民
  - ・ビザンツ(東ローマ)帝国との間で有利な和平を結ぶ
- エ)642 [43 ニハーヴァント]の戦いで[44 イスラーム ]勢力に敗れ崩壊、651年滅亡

### b. イラン文明

イラン民族文化の発展+[45 ヘレニズム ]文化の影響

- ①銀器、[46 ガラス ]器、織物、印章など美術・工芸の発達
  - [47 絹の道 ]を通り、中国・日本へ([48 法隆寺 ]寺や[49 東大寺正倉院 ]遺物)
  - のちのイスラム美術への強い影響
- ②[50 ゴロアスター ]教を国教とし、聖典[51 アヴェスタ ]を編纂
  - ペルシア人以外には宗教的寛容
  - 仏教、[52 ネストリウス ]派キリスト教、ユダヤ教などの流入
- ③3世紀 [53 マニ ]教成立=仏教・キリスト教・ユダヤ教などと融合
  - 弾圧→中央アジアや[54 北アフリカ ]、[55 ローマ ]領などに広がる
  - ソグド人
  - 中世キリスト教の異端派へ影響

この時期、イラン民族文化がおおいに発達した。金属器、じゅうたん、ガラス器といった美術工芸品は日本にも強い影響を与えている。またササン朝では[56 ゴロアスター ]教が国教とされ、経典の[57 アヴェスタ ]も成立した。しかし他方では宗教改革の動きも起こり[58 マニ ]教が成立した。[59 ネストリウス ]派キリスト教なども伝えられた。